



★今年の全面解禁は浅場で数が釣れる展開になった



▲期待と不安の全面解禁での初出船

外房大原港出船 今年の大原のヒラメ 浅場で数釣りの展開に

撮影●本誌編集部



▲ヒラメはだれにでも楽しめる泳がせ釣り



▲当日は潮が濁っていたので低めのタナ取りがよかった
▼まめに底ダチを取り直し1.5キロ級をゲット



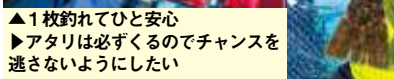
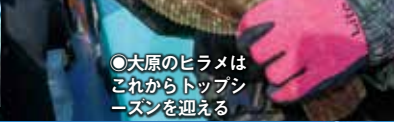
◎大原のヒラメはこれからトップシーズンを迎える



▲1枚釣れてひと安心
▶アタリは必ずくるのでチャンスを見逃さないようにしたい



▲取材日は平均2〜3枚の釣果



▲ヒラメ釣りは女性ファンも多い



▲来年のゴールデンウィークまでロングランで楽しめる
▼当日は0.5〜1キロ級が多かった



◀当日最大1.8キロを頭に7枚のヒラメを釣り上げた小林豊和さん

エサ&エサ付け&仕掛け

▶第一松栄丸では親バリエを口掛け、孫バリエは背掛けをすすめている

▶当日配られたエサのマイワシは15〜18センチ前後

◀船宿仕掛けはハリス6号、85センチ、捨て糸50センチ、親バリエは角セイゴ18号、孫バリエはトリプル8号、オモリ80号で統一している





外房大原のヒラメ釣りは秋以降の一番に期待が高まる中、今年も10月より全面解禁した。目下の釣り場は太東沖で、水深40〜50メートルの深場と灘寄りの水深15〜20メートルを攻め分ける展開となっている。

初日は台風の影響で海況が悪く、取材で訪れた大原港の松栄丸を始め各船が狙ったのは灘寄りの浅場。横流して探ると流し変えのたびに船中でアタリがあり、0.4〜1.8キロがトップ7枚、ほとんどの方がヒラメを手にできた。

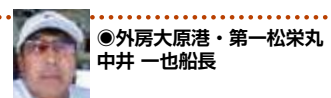
「昨年の全面解禁と比べて今年は数が釣れました。今後、イワシが回遊すれば大型のヒラメも釣れるでしょう」と中井一也船長も期待を寄せる。

シーズンは来年5月上旬までのロングラン。魚影の濃さは今期も間違いなさそうなので、これから様ざまなドラマを見せてくれるだろう。

(詳細は52ページ参照)



▲当日の釣り場は太東沖の水深15メートル前後



◎外房大原港・第一松栄丸 中井一也船長